

飛耳長目

森 信 三 先 生 参 究 誌

通巻82号 平成22年9月1日発行

「修身教授録」探求 (第四十七回) 三十二 加藤理學博士に就いて

森 信 三

昨日皆さんともにお聞きしました加藤理學博士の話は、この幾年の間、私の聞いた話の中で最も深い感銘を与えられたものでありました。私ははじめ偉人祭として、和宮様のお祭りならびにそれに関する講話のあとで、女の理學博士の話があると聞きまして、窃かにどこか一種そぐわない感じを抱いていたのであります。ところが、やがて馳その方は家庭を持ち、さらには子供二人も育てて居られる方であると聞きまして、聊か感じが変わってまいったのであります。そうして多少積極的な話を聞きたいという興味を持ち出したのでした。

さていよいよ講堂において、当の加藤さんのあの和服姿で、黒の三つ紋の羽織を召されたお姿を初めてお見受けした際、私は実に予想外の感じを受けるとともに、お話を待ちもつける私の気持ちは一度に昂たかぶった次第でありました。おそらくあなた方も同様な感じであったかと思いますが、あのご様子の中には、あの方が女の理學博士の一人であり、いわゆるあの日午前中は京都大学の理學部で専門の

学徒を相手に、学問上の講義をなさった方という匂いは、まったく露ほども感じられないことでありました。

さていよいよお話に入ってから、私には意外な事柄が多かったのです。まず最初にあの詩の暗誦は、おそらくあなた方も驚かれたことと思います。女の身でありながら、現在わが国の理學界に一家を成された方が、その少女時代においては詩にაცოგれた一人の純情な乙女であったということは、私にとっていろいろなことを暗示させられたことでした。もちろんそれは20数年も前に読んだ詩を、あのようにすらすらと暗誦できる記憶力の強さもさることながら、同時に私としては、人間の教養の基礎には深大なる情の世界がなければならぬということ、いまさらのように思わされたことでありました。しかもそれが、あの詩の暗誦によって、自分の記憶力を示そうなどという心は微塵みじんもなく、ただあなた方の乙女姿をご覧になって、自らの在りし日のお姿を思い出されて、おのずから溢れ出たものであることを思うとき、私のこの感じは一人深いものがあつた次第でした。

次に感じましたことは、あの女子師範時代に、図書に熱中されたというお話でした。こ

自身にも「私は凝り性ですから」と申しおられましたが、この凝り性ということが、また一つの大きな問題であります。すべて偉大なる仕事を成し遂げた人、あるいはそうまで申さずとも、総て一廉ひとかたの人と言われるほどの人は、男女を問わずどこかに凝り性というべきところがあるに相違ない。でなければ実際そこまではゆけないものであります。すなわち凝り性の人とは、ある一つのことにより自己を打ち込み切ることでできる人ということでありましょう。あの「九点先生」という仇名まで付けられて、かつて十点を貰った生徒のないう先生から、どうぞして十点をもらおうとされて、4年の長い間絵を描きに描かれた意志は、やがて後に家庭の重荷を背負いつつ、その生涯を費いて、自らの研究を続けられる意志となつたのでありましょう。しかもそれ程までに努力されながら、最後までついに十点をもらえなかつたにもかかわらず、それをつゆ恨みともせず、また途中で投げ出すようなこともせず、否それによつて得たものが、後年いかに自分を益したかを感謝しておられる態度こそ、実に見事な態度であります。が同時にまたあゝしたお心がけでなければ、真に偉大なる仕事はできないものでありましょう。

あとで校長室でのお話に「私は地位も名誉も望みません。ただ自分の努力が、些少せうしょうでも人類の幸福になるならばそれで満足です」と申しておられましたが、つまり絵において点数を恵まれなくとも何ら恨みとせずして中途でこれを止めなかつた意志は、今や同様の報酬を求めない心において、ご自身の専門の研究の道に生涯を費かんとしておられるのでありましょう。同時にかつての日の図書への異常なる努力が、師範在学中には遂に報いられなかつたけれども、やがて女高師に入つてから報いられたように、あの方の生涯を貫く努力は、よしあの方の存命中には十分に報いられないとしても、おそらくは没後において報いられることでありましょう。現に今朝お聞きする所によりますと、あの方のお書きになつた文章が、近く国定教科書の中に載るといふことであります。かくしてあの方のお偉いところは、どこまでもご自身の現在の境遇に不平を仰らず、しかも自分の志すところへ、あくまでも打ち込んでゆかれるその比類ない努力にあると申せましょう。師範を出た早々のうら若い女の身として、自ら進んで村の夜学を受け持つて、青年達に必要な珠算などを教えられた異常なる意志は、やがて方向を転じ

ては女高師から帝大を出て、ついに我が国3人の女理学博士の一人になられつつ、猶なほとどまることなく研究の歩を進めて居られる力となつたのでありましょう。猶今ひとつ注意すべきことは、あの方をして今日あらしめた背後の力として、そこに偉大なるお母さんが居られるということであります。一家の破産によつて、女学校の3年からあの方を女子師範に入れられたお母さんは、自分もこれからひと勉強すると言われて、東京へ出てミシンの学校へ入られたということであります。さらに又あの方が田舎の農村に骨を埋めようと決心しておられたのを、是非にと言つて、女高師へ行くことを奨められたのも、みなお母さんの力だということであります。また今日2人のお子さんまででありながら、女中一人使わずに過ひんとして居られるといふことは、偏ひとへにこのお母さんの献身的努力によるといふのほかないであります。日曜などには、あの方ご自身も洗濯などなさるとのお話でありましたが、しかし体の丈夫な母に及びませんと申しておられました。かく考えて参りますと、あの方を産み、あの方をして今日あらしめた背後には、あの方に劣らぬお偉いお母さんが控えて居られることを知

の行動は一切神意に叶えりと為す誤謬を犯す
が故である。神に対するこれ以上の冒瀆はな
いである。

地上のあらゆる宗教的經典は、個人を主体
とする声明の回心転換を説いているが、今や
我々はこれを民族生命を主体とする新たな
生命転換の原理にまで展開深化しなくてはな
らぬ。而してそこに新生日本の真の根本原理
は得られる。

日本の新生は直接これを導く如何なる宗教
的典籍もない。何となれば人類史は今日まで
民族を主体とせる生命の全的回心を敢行した。
事例を持たないからである。

(一行不明) 半亡国状態の半恒久的持続態
に入るか、それとも全死を通過して新生命に甦
るか、二者択一の外に途はない。

明治維新はいろいろな点から亡国に陥る危
険が少なかったと言える。それは今日の変革
のように、敗戦という悲劇を契機とすること
もなく、またその否定すべき過去は幕府制度
に過ぎなかったからである。然るに今日の変
革は現実的には敗戦を契機とし、その上その
否定は民族の全過去の歩みに対して敢行され
ねばならぬのである。

日本の新生はこれを最端的には敗戦を契機

とする民族的回心といふべきである。

民族的回心とは他に量的に全民族の回心と
いう意味ももちろんあるが、しかしそれ以上
に大切なことは、各人の命の新生がひとり個
人の全過去の否定にとどまらずして、民族の
全過去の否定を契機として行われるものでな
ければならぬということである。

民族的回心の語を以て素朴な民族主義と混
同するが如きは、誤れるも甚だしきものとい
わねばならぬ。民族的回心とは民族の各員が、
各々自己の裡に全民族の「業」を内観するこ
とである。すなわち各人が自らの裡に、全民
族の「宿業」を内観するの謂いに外ならない。

(「開頭」昭和23年1月第10号)

【注】 天之御中主神 (アメノミナカヌシノカ
ミ) は、日本神話に登場する神。天地創造に
関わった五柱の別天津神 (ことあまつかみ)
の 一 柱。『古事記』の天之御中主神 『古事記』
では、天地開闢の際に高天原に最初に出現し
た。

あとがきと誓えて

酷暑猛暑が連日続いている。何か天がこの
日本に試験を課されている感のある毎日だ。
政局は党利党略に終始し、国の後先の事は
全く眼中にないかの動きであって、政策も何
も密室の中で蠢き、国民の目線からは遙かに
遠い亡国の政権である。かたや野党も何ら有

効な刺激策を打ちだそうとしない。あきれて 4
ものも言いにくい。

円高は未曾有の段階にさしかかっているの
に、これまた目立った対応の動きもない。一
方諸外国は着々と自らの立場を強固にし、何
ら態度を明確にしない日本を尻目に最早相手
にしている。近隣諸国のお陰で我が国の政
局が炙り出されている情けない現状だ。詳し
くは姉妹紙「下学」を参照していただきたい。

(二繁)

第87回「かよう会」のご案内

日 時 平成22年 9月21日 (火)
18時30分～ (毎月第三火曜日原則)
場 所 四ツ橋ビル地下1階『会議室』
「電話」(四ツ橋ビル 管理事務所)
06-6531-3686

交 通 地下鉄：四つ橋線四ツ橋駅下車
2番出口へ。歩30秒
「長堀鶴見緑線」並びに「御堂筋線」
心斎橋駅及び「クリスタル長堀」との
連絡口で直結。

テキスト 森 信三著「修身教授録」(致知出版)
2300円 (大きな書店で購入)
9/21一道をひらく者(1)
10/19一道をひらく者(2)
11/16人を植える道
参加費 1000円

〒633-0003
桜井市朝倉台東二丁目五三八-八九
TEL・FAX 074-41-4513 4222
E-mail: hiji@ken.jp
http://web1.ken.jp/syushin/

